

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞
(11月29日 午後3時現在)

平成23年11月29日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- ・ 3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
11月29日午前10時18分、原子炉注水量の低下が確認されたため、給水系配管からの注水量を約4.2m³/時から約4.5m³/時に調整しました。
現在の注水量は給水系配管から約4.5m³/時です。
- ・ 4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。
- ・ 原子炉格納容器内への窒素ガス封入ラインから分岐した、原子炉圧力容器内に直接窒素を封入するラインを設置する工事を行うため、11月29日午前9時55分、原子炉格納容器への窒素ガスの封入を一時的に停止しました。その後、原子炉格納容器内への窒素ガスの封入を再開し、同日午前11時30分、原子炉格納容器への窒素ガスの封入量が28Nm³/hで安定していることを確認しました。

2号機（停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- ・ 3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約3.1m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約4.4m³/時です。
- ・ 5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 10月28日午後6時より原子炉格納容器ガス管理システム本格運用を開始しました。
- ・ 11月6日午前11時4分、使用済燃料プールの放射性物質除去装置の運転を開始しました。
- ・ 11月28日午前9時12分、使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、一次系ポンプの出入口の流量差が大きいことを示す警報が発生し、当該システムが自動停止しました。なお、同日午前9時16分に現場を確認したところ、漏えい等の異常は確認されませんでした。その後、調査の結果、流量検出器（差圧計）の計装配管におけるごみ等の詰まりが原因として考えられることから、11月29日午前11時50分、当該システムを起動し、フラッシングを実施しました。その後、流量検出器（差圧計）は正常に動作していることを確認しております。運転状態については、今後、継続して監視してまいります。

- ・ 原子炉格納容器内への窒素ガス封入ラインから分岐した、原子炉圧力容器内に直接窒素を封入するラインを設置する工事を行うため、11月29日午後1時47分、原子炉格納容器への窒素ガスの封入を一時的に停止しました。その後、原子炉格納容器内への窒素ガス封入を再開し、同日午後2時37分、原子炉格納容器への窒素ガスの封入量が $26\text{Nm}^3/\text{h}$ で安定していることを確認しました。

3号機（停止中）

- ・ 3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月1日午後2時58分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
11月29日午前10時28分、原子炉注水量の低下が確認されたため、給水系配管からの注水量を約 $1.9\text{m}^3/\text{時}$ から約 $2.1\text{m}^3/\text{時}$ に調整しました。
現在の注水量は給水系配管から約 $2.1\text{m}^3/\text{時}$ 、炉心スプレイ系注水配管から約 $6\text{m}^3/\text{時}$ です。
- ・ 6月30日午後7時47分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 7月14日午後8時1分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 11月29日午前9時24分、大型クレーンによる原子炉建屋上部のダストサンプリングを開始しました。同日午後1時、サンプリングを終了しました。
- ・ 11月29日午後0時30分、3号機原子炉建屋1階大物搬入口付近において、ロボットによるダストサンプリングを開始しました。同日午後1時、サンプリングを終了しました。

4号機（定期検査で停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認しました。
- ・ 7月31日午後0時44分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 使用済燃料プールについては、8月20日から11月8日にかけて、逆浸透膜による塩分除去装置によって塩分濃度を低減してきましたが、その後、さらに塩分濃度を低減するため、新たにイオン交換装置を設置し、準備が整ったことから、11月29日午前10時58分、同装置の運転を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

5号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後2時30分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 7月15日午後2時45分、本設の残留熱除去海水系（B系）ポンプによる残留熱除去系（B系）の運転を開始しました。
- ・ 11月28日より、取水路ポンプ室底部に堆積した砂等の吸い込みによるポンプ性能低下の防止を目的とした清掃作業を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

6号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。

- ・ 3月19日午後10時14分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後7時27分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 9月15日午後2時33分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

その他

- ・ 6月13日午前10時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- ・ 6月17日午後8時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月2日午後6時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを経由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- ・ 8月19日午後7時41分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- ・ 10月7日午後2時6分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- ・ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、10月28日、1～4号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- ・ 11月10日午前9時10分、2号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設高温焼却炉建屋への溜まり水の移送を開始しました。
- ・ 11月15日午前9時25分、3号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設プロセス建屋への溜まり水の移送を開始しました。
- ・ 11月28日午後2時28分頃、免震重要棟前に設置している、連続的に空気中の放射性物質濃度を測定する測定器（連続ダストモニタ）において警報が発生しました。警報を受け、全面マスク着用の運用に基づき、同日午後2時38分より全面マスク着用を指示しました。
 なお、モニタリングポストの値に有意な変動はないことを確認しております。
 その後、同日午後2時50分、測定器のフィルタを交換し、リセット操作により再起動しました。
 免震重要棟前における手動での空気中の放射性物質濃度の測定の結果、免震重要棟前における空気中の放射性物質濃度は検出限界値 (7.34×10^{-6} [Bq/cm³]) 未満であり全面マスク着用基準値 (1×10^{-4} [Bq/cm³]) 以下であることが判明したため、同日午後4時4分頃、全面マスク着用が省略可能である通常の運用へ戻すアナウンスを実施しました。詳細については現在調査中です。
- ・ 11月25日に水の漏えいが確認された淡水化装置からバッファタンクに送水する屋外装置の配管について、11月28日午後0時30分頃、同配管交換作業中に同配管の前回とは異なる位置でピンホールによる水の漏えいを確認しました。その後、交換作業を実施した後、午後3時40分頃、同装置の別の配管においてもピンホールによる水の漏えいを確認しました。止水テープによる応急処置を行い、今後この配管についても交換実施予定です。なお、この間、淡水化処理した水は十分であることから原子炉注水への影響はありません。また、漏えい箇所周辺の雰囲気線量は周辺と特に差がないことを確認しております。
- ・ 11月29日午前10時、6号機タービン建屋内から仮設タンクへ溜まり水の移送を開始しました。
- ・ 11月29日午後0時6分、淡水化装置からバッファタンクに送水する屋外装置の配管からピンホールによる水の漏えいを確認（漏えい推定量：約500cc）しました。その後、当該ホースを交換し、漏えいが停止したことを確認しました。なお、淡水化処理した水は十分あることから、原子炉注水への影響ありません。

以上